

平成28年度全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書の公表における  
教育長コメント（11月28日）

- 平成28年度全国学力・学習状況調査を詳細に分析し、北海道版結果報告書として取りまとめました。
- 本報告書では、全道や管内別の状況とともに、公表に同意をいただいた市町村の状況について掲載したほか、児童生徒や学校を対象とした質問紙調査の回答状況と教科に関する調査結果などを多角的な観点から分析するとともに、本調査開始以降十年間の学力向上関連の取組を検証し、そこから見られる成果や課題を踏まえ、今後の取組の方向性などを明らかにした上で、市町村教育委員会や学校等の参考となるよう事例を紹介しています。
- 本道の状況は、これまでの調査結果を踏まえると、全国の平均正答率との差が全教科で縮まってきており、本調査の結果等を活用しながら教育活動の改善を進めている学校が増えてきているところではありますが、学校が指導を行ったと考えていても、児童生徒がそのように受け止めていない状況や、児童生徒に望ましい生活習慣が十分身に付いていないといった状況も見られることから、学校の組織的な取組のさらなる充実や家庭・地域との一層の連携の強化などが求められます。
- 道教委では、こうした子どもたちの学力・学習状況の課題や改善方策を共有しながら、学校、家庭、地域、行政と一体となって本道の児童生徒の学力向上に努めてまいりますので、教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。